



中川ただあき県政通信 [水]

Water 水

NAKAGAWA TADAAKI "KENSEI TSUSHIN"

[第25・26合併号]

発行日 / 平成25年3月1日

発行所 / 自由民主党富山県議会議員会

ご意見をお待ちしております

- Tel. 076-495-8739 ● Fax. 076-493-6166
- メール : nakagawa@tadaaki.jp
- ホームページ : <http://www.tadaaki.jp>



2015
(平成27年)
富山・金沢
開業

●特集

最大限の開業効果を引き出すために

北陸新幹線 開業後の 富山を考える



呉羽山山頂より

昨年末の総選挙で政権が交代したこともあり、希望と明るさを感じられる中で本年がスタートしました。皆様には日頃からご指導ご鞭撻を賜り、心から厚く御礼申し上げますとともに深く感謝申し上げます。本年も何卒よろしくお願ひ申し上げます。

昨年の議会では、北陸新幹線、農業、教育、くすり、台湾関係を中心に質問に立ち、その合間を縫ってスペイン・イタリアの有機農業視察、台湾との交流促進のための訪台、東日本大震災被災地など委員会・部会などの県内外視察を通して活動してまいりました。

今回の『県政通信Water』は、「北陸新幹線開業後の富山を考える」というテーマで特集を組み、1年間の活動の一端を報告させていただきます。

1965年(昭和40年)9月26日、金沢市で開催された「一日内閣」で、富山県代表の公述人岩川毅氏が政府に対して、

東京を起点として松本、立山連峰を貫通し富山、金沢を経由して大阪に至る「北陸新幹線」の建設を求めてから、今年には48年目です。現在は敦賀までの認可着工は決まったものの、大阪まではまだルートさえ決まっていません。しかし、先輩関係各位の大変なご苦勞のお陰で、あと2年、2015年(平成27年)春に富山・金沢まで開業します。

新幹線が開業すると、何がどう変わるのか。最大限の開業効果を引き出すために、これまで取組んできたことについて報告します。

北陸新幹線車両。最高速度260km/h。
富山駅＝東京駅の所要時間は2時間7分。1編成の座席数は934席で、年間輸送能力(往復)は現在の約600万席から約1900万席へ、3倍強に増加します。



開業後を見据えた取り組みは いまだどこまで進んでいるのか？

新幹線が開業すると人口移動の可能性が明らかに増えます。県民にとって東京へ行きやすく便利になる一方、本県での消費行動が減少し、県内経済が縮小して活力がなくなるのではないかという懸念があります。いわゆるストロー現象です。

そこで、かねてから新幹線開業までにしっかりした考えで対策を講じなければならないと発言してきました。平成17年には「未来戦略プロジェクト」が立ち上げられましたが、その後、取り組みが停滞していたので、平成23年9月に指摘したところ、昨年4月に「元気とやま協働戦略アクションプラン」ができ、ようやく本格的に動き始めました。

その取り組み状況について質問しました。

県民の取り組みに 具体的な目標が必要だ！

質問●中川 (H24.6)

2年半後に控えた新幹線開業、その開業効果を最大限に引き出すために、「元気とやま協働戦略アクションプラン」が4月に策定されました。

このプランは、県民や企業・団体と行政が協働して、観光振興や交流人口の拡大、賑わいのあるまちづくりなどを推進するための県民行動計画であり、新しい取り組みも示してあり評価したいと思いますが、北陸新幹線開業後の1年先に北海道新幹線が新函館まで開業するなどかなり厳しい誘客競争になることを、覚悟しておかなければなりません。

水・食料・電気など自給できない東京圏に住む人が何を求めて富山に来るのかを明確にして戦略をたて、県民一丸となって取り組まなければ、PRだけの一過性の誘客運動に終わってしまいます。

東京にはない生活文化を求めて人は動き、定住の地を探していると言えるかも知れません。東京にあって富山にない物をい



「とやま帰農塾」はNPO法人グリーンツーリズムとやまが開講する滞在体験型ツアー。田舎暮らしに興味や関心がある都市住民を主なターゲットとして参加者を募集し、地元住民と一緒に農林業体験や伝統文化体験等を行い、交流を深めている。

くら探して持ってきても意味がありません。

プランでは、県民に対して何かを見つけ、磨きをかけなさい、情報を発信しなさいと言っていますが、具体的な目標がないと行動ができません。

最も大切なのは、食料も水も電気も自給出来る、そしてそこに住む県民の生活の姿、生きる姿を見せると言うことだと思っております。

県民が生きていく上で、どんな水を飲み、どんな物を食べ、どんな働き方をし、何を作りだしているのか、どんな伝統文化を育てているのか、これらを見せて、関心を持ってもらい、現地へ行きたいと思ってもらい、各地域を訪れ、交流を通して、住んでみたいと思い、定住へと結びついていく。このようなストーリー性があるこそ、地に足の着いた持続性ある誘客活動ができるのだと考えます。

この県民の生活の姿、生きる姿を見せるために、足りないものは何かを見つけ、磨こうではないか、と言うことではないでしょうか。

例えば、これまで「とやま帰農塾」に県外から参加した112名の内、11名も定住に結びついています。ストーリー性のある「とやま帰農塾」だからこそ成果が着実にあらわれているのだと思います。

そこで、官民一体となって共通の目標に向かって行動していくには、県民、企業、団体などに、どのようなコンセプトで、どこ

に軸足を置いて、何を目標として行動すべきなのかを、知事に伺いました。

●知事答弁要旨

新幹線の開業効果を最大限に生かすために一番大事なことは、ものづくりや農林水産業をはじめ、様々な産業界の事業者や団体に主体的に取り組んでいただくと同時に、幅広い県民の皆さん、地域団体等にも積極的に参画していただいて、こうした方々と行政が連携していくということが大事である。

東京など大都市にはない、富山ならではの生活文化を理解していただくということも大事である。

そのために、アクションプランでは、農林漁業体験などを通じて、富山ならではの豊かな自然、歴史、生活文化などについて理解を深めていただく多彩な体験の場を提供することも含めて、来県誘致のための具体的な取り組みを示した。

とやま帰農塾は、まさにこの取り組みであり、大いに広げていただきたいし、県も支援していきたい。

■ 実動部隊を作り、前進すべき

質問●中川 (H24.6)

今一番大事なことは、誰がリーダーシップをとって、現場を見て、提案されたことを具体的に、実現していくのか、このことが最も必要とされているのです。みんなで行おうという「協働」

という言葉は響きがいいのですが、責任が明確ではありません。

行政といっても県も市町村もあり、企業、団体といってもたくさんあります。誰が責任をもって実現していくのか、やはり県がリーダーシップをとり、実動部隊を作って前へ進める、このことが今一番求められているのではないのでしょうか。しかも、社長や会長ではなく、県・市町村・団体の職員、企業の社員などで構成される実動部隊が具体的な案を出し、一つ一つ課題を解決しながら前に進める。このようなプロジェクトが必要ではないのでしょうか。

知事は昨年の9月議会で、「まちづくりの主体は、市のほうだということにもなりますので、少し遠慮している部分もありますが……」などと、言っておられます。このような消極的な考えでは前進しません。

新幹線開業効果を最大限に引き出すという目標を実現するためには、新幹線3駅それぞれについて、具体的な案を出し、現場で一つ一つ課題を解決しながら前に進めていく実動部隊を作り、対応していくべきであると、知事に伺いました。

●知事答弁要旨

新幹線戦略とやま県民会議というのを今回設け、このもとに「観光と地域活性化」、「産業振興」の2つのプロジェクトチーム(P T)を、また、3つの駅を中心に、新川、富山地区、呉西と3つの地域会議を設けることにした。

環境づくりが重要だ！ 新幹線を利用しやすくする

新幹線を利用しやすくするには、並行在来線の活用がポイントとなります。特に、富山駅と東富山駅との中間、富山操車場跡地に新駅と駐車場をつくるのが重要です。さらに東富山駅、水橋駅、呉羽駅など既存駅の改善を図り利便性を増すことなど、並行在来線の乗降客増につなげることが必要です。その思いで、県に質しました。

お話しのように、確かに社長、会長だけでなく、実動部隊である職員、社員が動きやすいように図ることが大事というのは、全くそのとおりであり、2つのPTはできるだけ実務的な方を中心に構成する。

また、3つの地域会議も、地域ごとにしっかりブレークダウンして、また、もちろん地域からボトムアップということもあるので、それぞれその地域を代表する経済人に会長になってもらい、同時にいろんな実務的な方も含めて参加してもらう体制をとっている。

議員御指摘のとおり、新幹線の開業を間近に控え、これからは、やるべきことを着実に実行することが重要であると考えており、PT、地域会議を含めた新幹線県民会議を中心に、官民一体となって開業効果を高める取り組みを進めていきたい。



新幹線の開業により

①観光客の増加など
②交流人口の拡大、③企業立地の促進やビジネスチャンスの拡大、④これらに伴う雇用の創出など、県内経済や地域の活性化に大きな効果が生まれる「プラス効果」をしっかり引き出す必要があります。

新駅の設置と既存駅の改善が必要！

質問●中川

新幹線の乗降は、県内3駅ですが、その中心は富山駅であり



富山操車場の位置

並行在来線との連携が極めて大事なポイントであると思います。

今、富山空港を利用している人たちの多くが無料駐車場を利用していますので、これに代わる駐車場をどこで確保するのか。私は以前から言っているように、鍋田にある富山操車場跡地の県有地（約10ha）を駐車場にし、新駅を作ることを提案してきました。県ではまちづくり計画がないとできないとの方針ですが、新幹線乗降客の利便性を第一に優先すべきであると考えます。

中心市街地に住む利用者は別としても、郊外、周辺旧町村からの利用者はどうしても自家用車に頼らざるを得ません。そうした場合、富山駅周辺の駐車場では対応しきれないと予想されます。国道8号からのアクセスなど考えると県有地に新駅と駐車場をつくり、そこから並行在来線に乗り、富山駅で新幹線に乗り換えるのが自然だと思います。もちろん、並行在来線の利用客増にも繋がります。

人口減少の中で、新たなまちづくりといっても中々決め手がない現状を考えれば、まちづくりは新駅のあとでも十分でないかと思うのであります。

そこで、新幹線の開業にあわせ、鍋田にある富山操車場跡地の県有地を活用した並行在来線の新駅の設置と新駅利用者のための駐車場の整備を行い、富山駅の利便性の向上を図るべきだと思いますが、どのように取り組んで行くお考えでしょうか。

●知事政策局長答弁要旨

新幹線の開業に伴う交流人口の増大により、県都の玄関口である富山駅の利用者はかなり増加すると見込まれ、また、自宅等から自家用車で行き来する県民も相当数増えるものと予想している。

この点については、富山駅周辺整備事業推進協議会では、平成19年2月開催の会議において、新幹線利用者等による駐車需要の増加は700台超になると試算し、平成19年における利用状況をあわせて考えると、100台超の不足が発生すると予測していた。

一方、マリエの隣やその向かい側に民間駐車場が新設されるなど、19年の予測当時と比べ300台以上駐車台数が増加して

おり、さらに新幹線高架下の西口広場側にも約60台から100台程度の駐車場の設置計画があることから、数字の上では需要に対応できる形となっている。

しかし、駐車場の需要は、有料か無料か、また駅からの距離などによっても大きく異なると考えられる。

議員の御提案は、さらなる新幹線利用者の増加や並行在来線の利用促進を図るための一つのアイデアであるとお伺いしたところであり、今後、利用者のニーズも検討してみる必要があるが、御指摘の鍋田地区付近は昨年度の県の新駅設置可能性調査で新駅のモデル事例に選定した箇所であり、また、富山市が平成20年3月に策定した都市マスタープランにおいて、「北陸新幹線開業を契機とした新駅設置の検討を行う」とされていることもあり、今後、新駅や周辺施設の整備に関し、富山市のまちづくりについての考え方も十分お聞きしながら、富山市と連携協力しつつ、検討を進めていきたい。



新駅の設置については、第三セクターが設置主体となることから、新幹線が開業しないと取りかかることができないなど、課題もあります。しかし、駅舎、駐車場の位置、アクセス道路計画を早く立てることによって、道路など開業前でも取りかかれるものもあります。これらのことを踏まえ、できるだけ早く設置できるようこれからは働きかけていきます。

県民・来訪客が利用しやすい二次交通の整備を！

質問●中川（H24.6）

新幹線、飛行機、クルーズ客船などで富山を訪れる人は、新幹線の3駅、富山空港、伏木富山港からどのような交通手段を使って移動するのか、いわゆる二次交通の具体的な取り組みが必要であります。

現在は、空港に降りたら、最寄りの駅までのバスとタクシー、レンタカーで目的地へ行くしかありません。立山黒部アルペンルート、宇奈月、氷見、八尾、高山、五箇山などに行きたい、逆に、そこから富山空港に行きたいと



JR 富山駅の完成予想図



富山操車場跡地。約10haの広大な県有地がある。

思っても本当に利便性があるのか疑問であります。富山駅も同様ではないでしょうか。

県では、地域交通は市町村と事業者の役割と言ってきましたが、ほとんど整備が進んでいない状況です。

そこで、県外・国外から富山を訪れた人が新幹線駅、富山空港、伏木富山港から目的地へ移動できるよう、県が率先して、二次交通の整備をすべきと思いますが、具体的にどのように進めていくお考えでしょうか。

●知事政策局長答弁要旨

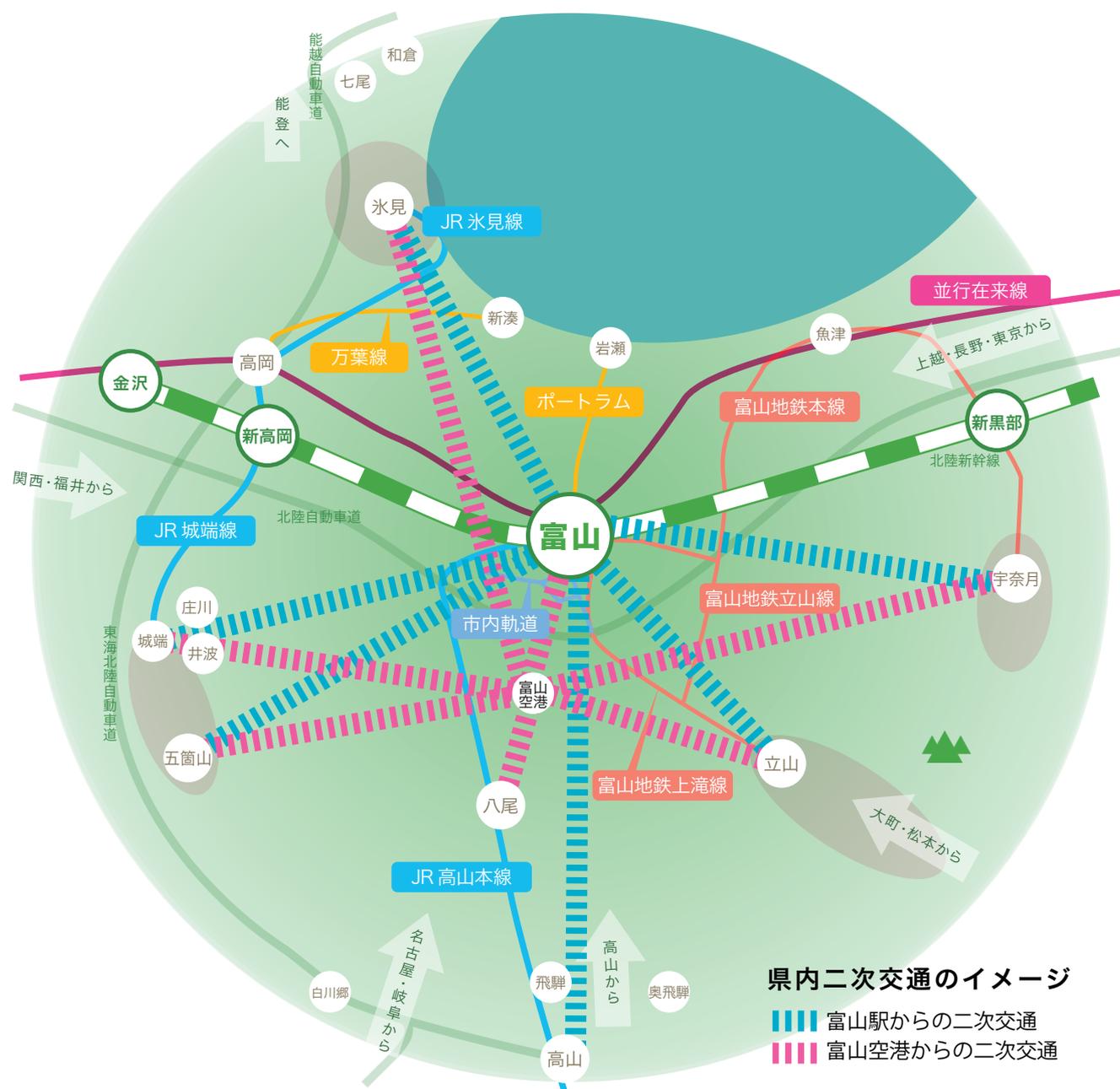
観光やビジネスなどで来県される方々が県内を周遊しやすくするためには、新幹線駅や富山空港などの交通拠点から県内各地の目的地へ移動するための二次交通が重要である。

このため、これまでも県においては、地鉄路面電車、万葉線、路線バス等に対する支援を行ってきたほか、新幹線の新高岡駅（仮称）と接続する城端線新駅、新黒部駅（仮称）と接続する地鉄新駅を整備することと

し、必要な支援を行ってきている。

また、新幹線3駅では、路線バスやタクシーへ乗り継ぐための駅前広場の整備が進められているほか、富山駅、高岡駅の駅舎整備にあわせ、路面電車の各駅舎への乗り入れが計画されている。

一方、現在のままでは二次交通が不十分であることは議員御指摘のとおりであり、開業まで約2年半の中で早急に対策を進める必要がある。このため、新



幹線戦略とやま県民会議におきましては、鉄道事業者、バス事業者、タクシー事業者、レンタカー事業者といった方々にもメンバーに入っていただいたところであり、今後、県民会議において二次交通についてもしっかりと議論をし、県内各地へのアクセス向上のための方策を実行してまいりたい。

将来、交通事業者は一体化すべきではないか！

質問●中川 (H24.6)

本県には、富山地方鉄道と加越能鉄道の私鉄がありますが、母体がほぼ同じ経営会社です。そしてJRと今回設立の三セク、この3者が狭い本県で公共交通の担い手として経営、運営をしていかなければなりません。

将来、私鉄さんには大変失礼かもしれませんが、一本化することで、重複運行なども回避できる効率的な運営、あるいは乗り継ぎの解消という利便性の向上などが実現できるのではないかと考えています。

そこで、将来の富山県における地域公共交通の姿として、どのようなものにすべきとお考えなのか、知事に伺いました。

●知事答弁要旨

本県には4本のJR線と3本の私鉄線があり、さらに3本の路面電車がある。これに新たに加わる北陸新幹線を含めて、全国有数の鉄軌道の財産がありまますので、これは十分に活用しないとならない。また、これらと接続する路線バスなども含めた公共交通全体を、利便性の高いネットワークとして活用していくことが重要であると考えている。

そこで、県ではこれまでも、パーク・アンド・ライドの推進、低床バス・LRT新型車両・交通ICカードの導入などに対する補助、富山らくらく交通ナビによる乗り継ぎ情報の提供など、利便性向上のための施策を実施してきている。来年度は新幹線の新高岡駅（仮称）と接続する城端線の新駅、新黒部駅（仮称）と接続する地鉄新駅の詳細設計に対しても助成することにして

いる。県内公共交通機関の一体的運営も考えられるという御意見、御指摘があったが、それぞれの出資者もいらっしゃる私鉄、また沿線市が中心となっている第三セクターは、それぞれ事業の

特色を生かしながら切磋琢磨して、同時に連携できる点は連携していくということで、利用者利便の向上なり公共交通の活性化に寄与すると考えている。

私は、経営がなかなか難しい点もあるけれども、一生懸命やっている私鉄もあるわけであり、がらがらぼんというのは難しいのではと思う。

具体的には、交通ICカードの利用範囲の順次拡大、ダイヤの調整、共通切符の販売といった点では、県としても支援や調整をして、私鉄や第三セクターなどと、しっかり連携していきたい。



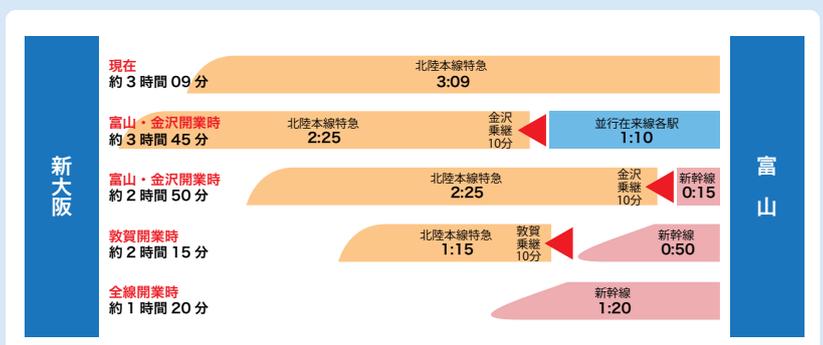
二次交通は大変遅れているわけですが、特に、富山駅から各方面に行ける交通体系をしっかりと整備することが最も必要であると思っています。また、富山駅から送るのではなく、目的地から迎えに来ましたという感覚で路線の設定をすべきであると思います。二次交通は来訪者だけの者でなく、県民の利便性も大きく高まります。是非みなさんのお考えをお聞かせください。

大阪・名古屋方面へは金沢での乗り継ぎなしで運行を！

新幹線が金沢までの開業となることから、JR西日本は特急列車（現行23往復）を金沢で打ち切る方針を出しています。

これに対し、関西、中京方面へ富山から行く場合、来県される場合、どうしても金沢で乗換しなくてはならないので非常に不便となることから、粘り強く交渉して成果を出す必要があります。

一番の課題は、23往復の特急電車を運行することによって、JR貨物からの貨物線路使用料が年間約15億円程度の減収になるとことであるとされています。



米百俵の精神で真の人づくりを！ 農業大学校をつくるべき！

栽培技術を身につけた 若い担い手の育成を

日本の人口が減少すると言うことは、胃袋の数が減少すること。とくに主食米が減ると言うこと。となれば、ますます稲作の必要性が求められるようになります。その結果、水稻を主としてきた農業は、水稻以外の作物に取り組む必要が出てきます。このようなことから、本県では一億円産地づくりと称して野菜生産に力を入れ始めています。

しかし、一朝一夕に既に産地化された野菜生産産地に勝つことはできません。若い担い手を育てるには、何をおいても栽培技術をしっかりと身につけることが大切です。

農業法人や大規模専業農家においても、基礎を学んだ人材が求められています。

また、世界の人口が増加する中で、食料不足は明らかであり、日本も食料を輸出する国になって行かなければならない時が来ています。日本が日本であるために、富山が富山であるために、人口が減少しようとも水田農業が存続していることが極めて大事なことと考えています。

このことを考えると、加工米、飼料米に加え、外国人向け米の作付け（日本人が食する米が一番よいが、外国人が好む米も含めて）も真剣に取り組む必要があると思っています。これまで

すばらしい栽培技術を持った先輩も多くいらっしゃいますが、その技術を後継者に引き継ぐことも必要です。教えたくても後継者がいない場合も多くあります。そんな場合栽培技術をストックして後世に引き継いで行くことも必要です。

しかし、本県には、農業の高等教育を学べる学校がありません。かつては県立技術短期大学に農業科や農業機械科がありましたが、県立大学の改組によりなくなりました。

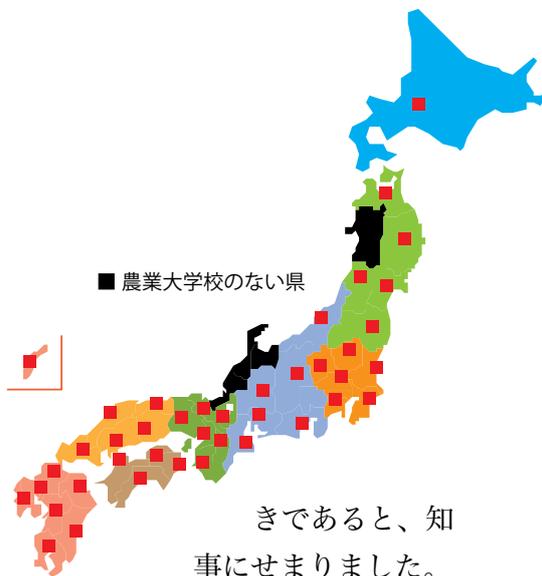
農業大学校がない県は 全国にわずか4県

そこで、農業大学校をなんとか設置できないか、との思いで他県の状況を調査してまいりました。

他県では、農業大学校を再編しながら力を注ぎ、確実に担い手対策に繋がっている姿を見ってきました。

農業大学校は、科学的技術及び知識を習得する実践的研修教育プログラムを備えた全寮制、2年制の学校で、それぞれの地域の特徴を活かした学科編成となっています。農業大学校がない県は全国でわずか4県です。

そこで、本県が園芸作物の生産などに本腰を入れて取り組み、元気な農業を若者に託していくならば、農業技術の土台と基礎を学べる農業大学校をつくるべ



■ 農業大学校のない県

きであると、知事にせまりました。

これに対して知事は、「園芸等の分野を希望する方には県外の先進農業者のもとでの研修のほかに、県外の農業大学校等での就学に対する支援など行っている」、「本県に教育施設を作っても維持できるような高いニーズがない」、「全国の農業大学校は半数が定員割れである」などと消極的な答弁におわり、非常に残念でありました。

基本となること、土台となることを学ばずして栽培技術の向上やマーケティングの強化を図ることができません。まして、富山県の土に応じた、あるいは気候に応じた農業技術を磨くためには、私は農業大学校が必要であると考えています。



学びたければ県外で
学んで来ればいいと
いうスタンスでは農業

に賭ける若者を本当に持続的に育てることが出来ない。お金がかかるから、出来ない。これでは、真の人づくりができるのだろうか。今こそ、米百俵の精神で取り組むべきである。

子供たちに「くすりの富山」をもっと教えるべき 「薬都とやま」を目指すには！

「薬都」にふさわしい教育研究機関の充実を！

本県の医薬品生産額は、2011年は5754億円（全国3位）で、県薬業界は1兆円を目指して頑張っています。名実ともに「薬都とやま」を目指すには、薬に関する教育や研究機関、製薬や販売会社などが集積され、大学、試験研究機関、製薬企業などが連携して医薬品の研究開発をすることも必要です。

このことから本県では、医薬品の開発につながるバイオテクノロジーや和漢薬に関する研究を大学に委託、製品開発と製剤技術を大学や研究機関と共同研究する製薬企業への支援、ほくろく健康創造クラスター事業の実施など行ってきました。

しかし、県内には薬学系大学一校だけで研究機関も非常に少ないことが課題となっています。

薬学を志望する子どもたちを増やすために

県立大学への薬学部新設や薬学系の大学の誘致などを通して、薬業関係を学ぶ人材を増やし、「くすりの富山」を維持していくために、人づくりの基礎である教育機関の充実を図っていくことが必要であると提案しました。

さらに、県薬業界から医薬品生産額を伸ばすには、より高い品質の医薬品の製造に求められる優秀な薬剤師の確保等が課題



県薬事研究所で製剤・分析技術を研修する高校生

であるとの指摘を受けています。

しかし、昨年から6年制の薬剤師が誕生しましたが、本県出身者が減少傾向にあることが非常に心配であります。富山大学に薬学部がありますが、本県出身者が他の学部と比べて少ない。

薬学系の人材を育成するために、富山県が「くすりの富山」や「薬都とやま」を目指していることについて、もっと子どもたちに教えるべきと提案しました。

私の質問に対する厚生部長の答弁要旨は次の通りでした。

①小学校では、富山の薬業の祖である前田正甫公のこと、富山市売薬資料館や広貫堂資料館の見学を行い、薬学への興味・関心を持たせている。

②中学校では、社会に学ぶ14歳の挑戦での薬局や薬品会社での職場体験、総合的な学習の時間での売薬についての体験的な学習を通して、富山の伝統的な産業である薬業について理解を図っている。

③高校では、薬の製造現場や研究室における実践実習や、薬学部への一日体験入学を通して薬学への専門的な理解を深めている。

④さらに、薬剤師への興味と理解を深め、薬学部への志願者を増やすことを目的として、24年度から県内中高生を対象として、県薬事研究所や医療機関において薬剤師の仕事を経験する学習事業を実施することとしている。

⑤また、県薬業界に人材を確保するため、富山県、石川県の薬学部生を対象とした県内製薬企業セミナーを開催するとともに、薬学系大学すべて(73か所)に「薬都とやま」をPRするパンフレットの配布を行っており、県としては、今後とも未来を担う優秀な人材確保に積極的に取り組むたい。



それでも、減少傾向にあるのは、なぜか！
ということを考えて対策を講ずる必要がある。

策を講ずる必要がある。

日本人として誇りや自信がもてないのは 歴史教育に原因がある！

困難な状況を克服する 気力が失われている

質問●中川 (H24.9)

高校までは勉学に励むが、大学はサロン化で、勉強もそこそこにしてアルバイトばかり。就職は大手企業か公務員志向で、海外への留学希望も減少傾向。大学を卒業しても就職しない3万人のニートが出現しています。

経済状況が悪いこともありますが、困難な状況を克服して働いていく気力が非常に欠けていると言わざるを得ません。何が足りないのか。私は、日本人としての誇りと自信の喪失が日本中にはびこっているからではないか思います。

その原因は何か。私は歴史教育にあると思います。

国民に自国の歴史、特に幕末から明治、大正、昭和、そして今日に至るまでの約160年間——特に、日本はみずから好んで戦争への道を突き進んでいったかのように言われていますが、本当にそうであったのか。日清、日露、大東亜戦争はなぜ起きたのか。東南アジア諸国との関係はどうであったのか。東京裁判からサンフランシスコ講和条約に至るまでに何があったのかなど、一番大事な部分を中学や高校で教えてこなかったことが、日本人としての誇りと自信を持ってない国民をつくってきたと思うのであります。

まして、現在の中学生の歴史教科書には、中国か韓国の歴史教科書かと思わせられる記述や、日本人が昔から悪いことをしてきたような記述も多く見られ、いわゆる自虐的な史観を教える教科書になっています。また、今まさに問題となっている北方領土、尖閣諸島、竹島が日本固有の領土である歴史的事実を詳しく教えていません。正々堂々と歴史的事実に基づいて語れる教育をすべきではありません。

自国の先人が汗と信念で築いた自国の歴史を忘れた民族は、必ず滅ぶと言われています。グローバル化の時代になればなるほど、祖国を愛し、祖国の歴史をしっかり語れる大人を育てる必要があります。

無気力で内向きな若者が多くなってきているのは、日本人としての誇りや自信を持ってない学校教育、特に歴史教育に原因があると思いますが、村井教育委員長のお考えを伺います。

●教育委員長答弁要旨

日本人としての誇りや自信を持ってず、無気力で内向きな若者の気風は、昨今の長期にわたる政治の混迷、経済の停滞、そして殺伐とした毎日のニュースを見てもおわかりのように、日本の大人社会全体の気風でもあり、



県内公立中学校で採用されている歴史教科書

大人がみずからを省みて、若者に範を垂れることも必要であり、大切なことであると考えている。

そのためには、議員御指摘のように、学校教育においては、歴史教育に力を入れていくことは、一つの有効な方策であると考えている。子供たちが自国の歴史についてしっかり学ぶことによって、グローバル社会の中で自国の立場やみずからの考えを、自信を持って発信する力や、他国の立場や異なる文化を尊重する態度を身につけることは大変重要なことであると考えている。

特に、幕末から明治にかけて、欧米列強の外圧の中で、アジアでいち早く近代化を成し遂げた先人の足跡や、第二次世界大戦で打ちひしがれた日本を見事に復興させた人々の努力を学ぶ意義は大変大きいと考えている。こうした意味でも、近現代史を中高校生がきちんと学ぶことは大切なことである。

このため、高校生の補助教材『ふるさと富山』を作成し、この教材を活用して、県立高校生全

員が郷土や日本の近現代史を学ぶこととしている。

また、小中学校では、『ふるさととやまの人物ものがたり』を活用して、高い志を持ち、幾多の困難を乗り越えて、夢を実現させたふるさとの先人の生き方を学ぶことによって、ふるさとへの誇りや夢をはぐくむように努めている。

今後とも、本県の子供たちが日本や郷土に誇りや自信を持って、活力や魅力ある社会づくりに貢献できるよう、歴史教育の充実に努めたいと考えている。

道徳教育は具体的な方針を示せ！

質問●中川 (H24.9)

いじめ、不登校、暴力行為などが依然として横行していますが、その対策が後手後手で、国の来年度予算にスクールワーカー、スクールソーシャルワーカーの増員など要求されているようであります。遅きに失しているわけですが、子ども手当を削ってでも対応すべきです。

文科省では、少人数学級にさえすれば解決できると考えているようではありますが、抜本的な解決策ではないと思います。本当に根絶するための方策は何か。本当の原因は、家庭教育と学校教育の荒廃にあると思います。中でも、道徳教育の失敗です。

本県教育の基本目標は、1つは「人間の生き方を考える優れた知性の育成」、2つは「自然と芸術・文化に親しむ豊かな心の育成」、3つ目は「風雪に耐えて生きぬく

たくましい体の育成」を掲げていますが、その基礎となる道徳の方針、日本人がよるべき精神的基礎が示されていないのです。

例えば、親孝行をする、兄弟は仲よくする、勉強し職業を身につける、誇りある日本人になる、役に立つ日本人になる、尊敬される国際人になるなどといった具体的教育方針を示すべきと考えますが、教育長に伺います。

●教育長答弁要旨

各学校では、道徳教育において、議員御指摘の働くことの大切さや父母、祖父母を敬愛することなど、学習指導要領で必ず指導することになっている内容を、週1時間の道徳の時間をかなめとして、各教科等において道徳との関連を明確にするなど、学校教育全体を通して指導し、児童生徒に道徳的な心情、判断力、実践意欲、態度などの道徳性を養っている。

また、各学校の取り組みを支援するため、県教育委員会では、道徳教育講演会、いのちの教育講演会の実施、助産師などいのちの先生の派遣し、「産んでくれてありがとう」など、家族や地域の人への感謝の気持ちをあらわし、相互に心を伝え合う「いのちのメッセージカード」による親子の交流の実施など、家庭、地域、学校が一体となって取り組めるようにしているところである。

御指摘のとおり道徳教育は大切であると考え、『新・元気とやま創造計画』においても、道徳教育のねらいである豊かな心の育成を掲げているところであり、道徳教育の充実に努めてまいります。



ならぬものはならぬ！
という教育が必要だ！

今年の言葉「不易流行」

今年の言葉として「不易流行」を選びました。

人は常に改革を求め発展していかなければなりません。しかし、変わってはいけないものや変えてはいけないものがあることを忘れてはなりません。

戦後教育の中で、誠実で勤勉で謙虚で他を思いやる日本人の良さを古い考えだと言って、道徳教育をなおざりにしてきました。また、自国の歴史に学ぶ教育をしてきませんでした。それどころか、自虐的歴史観ばかり植え付け、自国を批判する者が増え、挙句の果てに海外に行って反日運動に加わる国会議員がいる有様です。情けないの一言です。

日本人として日本を背負う気概をなくし、働けるのに働こうとしない者が増え、自助の精神、自立することを忘れてしまったようです。なんとか、失ったもの、変えてはならないものを取り戻したい、そんな想いで揮毫しました。





松川と遊覧船



池田屋安衛商店



富岩運河環水公園



豪農の家 内山邸

観光の魅力アップに、県民あがての取組みを！

富山駅を訪れた観光客は、半日ほどの時間があつた場合に、その時間をどのようにして楽しむのでしょうか。

たとえばセントラムを乗り降りしながら、高志の国文学館、池田屋安衛商店、ガラス美術館(計画中)などを巡りながら、中心市街地を散策するというコースがまず考えられるでしょう。

ポートラムを利用して岩瀬まで行き、運河や港の風景、岩瀬の町並み、北前船廻船問屋森家、榎田酒蔵などの見学を楽しむこともできます。

あるいは、タクシーを利用すれば、五百羅漢、民俗民芸村、水墨美術館、内山邸といった呉羽山周辺の観光スポットを周遊することもできます。

いろいろなコースが想定できますが、何と言っても旅先では、美味しい食事を楽しめる店や土地の土産品を選べる店などが欠かせません。

観光の魅力を高めるためには、観光コース周辺への飲食店・物産店の出店、とくに路面電車が走行する界限への出店を促す必要があると考えます。

また、郊外だから関係がないと思っておられる方も多いと思いますが、富山の食材を使った美味しいものを提供する、薬膳料理を提供するなど、富山ならではのものをもてなす店づくり、地域づくりが必要です。

農村地帯では農家民宿など都会からの交流促進につながる行事、神輿や獅子舞など「むら」の行事に参加してもらうなどいろいろと考えられます。

是非、県民の皆さんひとり一人が知恵を出して、ふるさとの魅力づくりに取り組んでいただきたいと思います。

おわりに

新幹線開業効果を引き出す取組みは始まったばかりです。

「いっぺん富山にこられ」と言って、あなたなら、とやまのどこに連れて行き何を見せますか。何を食べますか。

見知らぬ人から「〇〇の美味しいところは」「時間があるのだけどどこに行けばいいか」など聞かれて、「何にもないちゃ」という答えだけはないように、日頃から案内できるように心がけることが大切であると思います。

こうした行動が「協働」につながり県民あがての取組みになると思います。

あなたの思いを実現させるために、多くの皆さんに語ってください。新幹線開業によって一人でも多くの方が観光に、さらに定住に結び付くよう努力したいと思っております。

是非、いろんなご意見をお待ちしております。



2015年春 北陸新幹線開業

富山県では、北陸新幹線開業を全国に発信するためのキャッチフレーズとロゴデザインを、昨年末に決定し発表しました。



五百羅漢



北前船廻船問屋 森家



ポートラム



民俗民芸村